

風光る丘

平岡中央中学校ホームページアドレス <http://www.hiraokachuo-j.sapporo-c.ed.jp>

札幌市立平岡中央中学校

学校だより

令和3年(2021年)3月15日

第29回 卒業証書授与式

学校長式辞

校長 鈴木克明

厳しい寒さが続いたこの平岡中央地区にも、確実に春の息吹が感じられるこの佳き日に、岡下 PTA 会長様、並びに保護者の皆様にご臨席を賜り、第 29 回卒業証書授与式を挙行できますことに厚く御礼申し上げます。しかしながら、新型コロナウイルス感染状況については、まだまだ予断を許す状況には至っておりません。本来であれば多くの来賓の方々にご臨席いただき、保護者の皆様にも人数制限などかけず参加いただきたいところでした。また在校生についても、卒業生の最後の一举一動を目に焼き付けてほしかったのですが、現状では致し方ございません。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。今手渡した卒業証書は、中学校3年間の課程を終了したと同時に、9年間の義務教育終了を意味する極めて重みのあるものです。それは皆さんの努力の賜であるとともに、多くの人に支えられて手にすることができた卒業証書でもあります。今日まで皆さんを慈しみ、育ててくれたご家族、先生方、地域の方々など、お世話になった人への感謝の気持ちを持ち、今日この日を自分の決意を新たにす旅立ちの日としてください。

さて、卒業が間近に迫ったある休日、私は誰もいない3年生の教室をぶらり訪問しました。まず最初に目についたのが、生徒会の企画「絆つくりプロジェクト」の学級一人一人のメッセージが書かれた掲示物です。3年生のスタート時に作成したこの掲示物には「尊重」「助け合い」「手を差し伸べる」「笑顔」「思い出たっぷり」といったことばがちりばめられており、どのクラスも表現の仕方こそ違え、他人を思う気持ちや集団のまとまり、幸せを願う気持ちが強く表れていました。また、各学級には学級目標が明記されたオリジナルの学級旗が教室正面に掲げられていました。1組は「一等星」です。真ん中の大樹を学級人数分の一等星が取り囲み、強く優しい光を発しています。夜空に輝く一等星はクラスメイトであり、その一人一人の確かな存在感が感じられます。2組は「32レタス(サニーレタス)」です。生命力を強く感じる、かわいらしいサニーレタスが中央に描かれています。私も初めて知りましたが花言葉が「陽気な心」「明るい未来」ということで、学級としての願いがしっかりと伝わってきました。3組は「田 PPO (タッポ)」です。人気のあるチョコレートの商品名を一ひねりしています。よくよく見ると「中まで思い出たっぷり」と書かれており、このお菓子の特徴である「チョコたっぷり」を「思い出たっぷり」に置き換え、クラスの願いにつながっていることが理解できました。4組は「あつまれつばきの森」です。一人一人にとってかけがえのない大切なクラスに成長できるようにという思いが込められています。笑顔の椿野先生が正面に立ち、その横には希望の虹が描かれていました。7組は「天秤・岐路」です。天秤のように揺れる心と進路選択という岐路に立たされた最後の1年、正面から立ち向かい、しっかり自分の力で乗り切ろうという強

い決意が感じられる目標であり学級旗でした。一通り各教室をめぐり、最後の教室を出たとき、ふと廊下の掲示物に目が釘付けになりました。そこには受験や卒業が目前に迫った思いを綴ったメッセージが貼られていました。どれも心にしみるものでしたが、ここで一つだけ紹介します。『優しい心で 真正面から向き合ってきた仲間たち 信頼、そして絆 たくさんの思い出を作った 空高く飛び立とう 来年も再来年も 心の中ではつながっている』私のぶらり訪問はほんの短い時間でしたが、きっと皆さんにとって中学校3年間の思い出は計り知れないものであり、今後の人生の中でもかけがえのない大きな糧になることでしょう。

次に、私から皆さんに伝えたいことをお話します。それは、平岡中央中学校の卒業生として、胸を張り、誇りを持ってほしいということです。今年度の学校生活を振り返ったとき、コロナ禍により、合唱コンクールなど、全学年が同じ空間で活動する場面は残念ながらありませんでした。本来であれば先輩たちが、3年生の先輩らしい姿や発表を直に感じ、そこから学ぶことは何物にも代えがたいものであることは、皆さんが一番理解していると思います。そしてこのような交流があって伝統が引き継がれていくものだと思います。しかし、私は年度の途中から、もっと静かで、もっと深い3年生の真の力を感じるようになりました。それは日々の取組であり日々の姿から発せられている目立たないが確実な力です。つまり、具体的には授業に向かう姿勢、部活動でのひたむきさ、生徒会活動での頼りになる姿、日々のあいさつなどです。うまく言葉では説明が付きませんが、見える、見えないを含め、魔法のように後輩たちに伝播されていると私は確信しています。

最後に、未来にはばたく卒業生の皆さんに、詩人、宮澤章二さんの「自分の一步」という詩を紹介します。『いま 私の踏みしめる一步は 誰か他の人の一步ではない 私の足が地上に刻む一步はいつでも私自身の一步なのだ 他人より一步先を行くからといって 他人より優れているとは限らない 他人より一步後を行くからといって他人より劣っているとは限らない 自分の目標を定めて歩きだしたのだから 自分の一步をしっかりと信じて進もう その決意が最後まで歩く力を生む 出発点には人生などまだない 到着点にこそわが人生はあるのだ 歩きつづけ生き抜いた尊い証明として』

終わりにになりましたが、保護者並びにご家族の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうでございます。3年前、中学校の門をくぐったあどけない笑顔が、今たくましさと自信にあふれた大人の顔に変わっているのを目の当たりにして、感慨もひとしおのことと存じます。今日まで本校にお寄せいただきましたお力添えに感謝申し上げますとともに、卒業されるお子様の今後のさらなる成長をご祈念申し上げ、本校「第29回卒業証書授与式」の式辞といたします。

卒業生 お別れの言葉

永田 葵

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業式を迎えることができました。

3年前の春、真新しい制服に身を包み、不安を抱くと共に大きな期待を膨らませ、この体育館で入学式を迎えました。あれから3年、本当にたくさんの出来事がありました。1年生になって間もないころに行われた炊事学習では、新しい仲間と共に係や班での交流を通して、時間や集団行動、仲間への思いやりなど、大切なことを沢山学びました。その中で、仲間との距離も縮まり、絆が深まっていきました。そんな楽しい毎日が続いていくと思っていましたが、学校祭の準備を進める中、北海道は大きな自然災害に見舞われました。台風が上陸して大きな被害があった後、9月6日未明に最大震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生しました。地震の影響で臨時休校や短縮日課になり、学校祭の中止も危惧されました。しかし、初めての学校祭は延期して開催されることとなり、忘れられない思い出になりました。そして、様々な困難をみんなで乗り越え迎えた合唱コンクール。心を一つにして奏でるハーモニーはとても心に響き、私たちの学校の伝統である「合唱」のすばらしさを物語っていました。当たり前の日常を取り戻し、いよいよ3年生になるという時、全世界を巻き込んだ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、また乗り越えなければならない壁が立ちふさがりました。臨時休校、分散登校、行事の延期や中止など、予期せぬ学校生活を送るというスタートになり、極めて異例の経験をする事になりました。この危機的状況で中止になった行事もあり、残念でなりません。中学校生活最大の行事である修学旅行も、2度の延期であきらめかけていましたが、先生方や旅行関係者の皆様が修学旅行を実施できるように計画を何度も練り直していただき、感染症対策を徹底しながら、様々な活動を工夫し楽しむことで無事に終えることができました。また、3年生での学校祭では、開校以来初めてリモートで実施しました。結果は全校生徒がしっかりと距離を保ちつつ、盛り上がる事ができ大成功でした。これらを通して、大変な状況でも、みんなで力を合わせれば、乗り越え、楽しむことができることを学びました。

これまで私たちはたくさんの方々に支えられてきました。時には厳しく、そして優しくご指導いただきました先生方、お世話になりありがとうございます。私たちがこうして成長できたのは先生方の存在があったからです。いつも私たちを見守り、困っているときや悩みを抱えている時、一緒に解決して下さったことで私たちがどれほど救われ、頑張ろうという気持ちになれたことか、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、いつもどんな時も私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれたその温かさにとっても感謝しています。また、ここにはいない在校生の皆さん、今まで私たちを支えてくれてありがとうございました。部活動や生徒会活動など様々な場面でかかわることができて楽しかった思い出がよみがえります。これからは皆さんが新1年生と共に平岡中央中学校の伝統を引き継ぎ、新たな歴史の1ページを築き上げていってください。そして、3年間隣にいるのが当たり前だった仲間たち。一緒に泣いたり、笑ったり、何気ない日常を共に過ごして来ましたが、全員が揃うのも今

日で最後だと思うと寂しさが込み上げてきます。今日を境に、それぞれの進路に向かって歩き出しますが、これからもずっとかけがえのない仲間です。平岡中央中学校で積み上げてきた経験と未来への希望を胸に、それぞれが心に決めた目標に向かって力強く広い世界へと羽ばたいていきましょう。本当にありがとうございます。最後に、お世話になった皆様に、感謝の気持ちを込めてありがとうございますの歌を送りたいと思います。

在校生 送る言葉

田邊 一誠

冬の厳しい寒さも和らぎ徐々に春の暖かさが感じられ、いよいよ春めいてまいりました。本日晴れて平岡中央中学校卒業証書授与式を迎えられた第29期生の皆様ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

梅の花が咲き誇る中、真新しい制服に身を包み、これから始まる中学校生活に期待で胸を膨らませていたあの頃から、はや3年の歳月が経とうとしています。今、皆様の胸の中にはこの平岡中央中学校で過ごした3年間の思い出がこみあげているのではないのでしょうか。この校舎のどこをとっても思い出が尽きないような充実した日々の中で、沢山のことを学び、経験した先輩方から、僕たち在校生も色々なことを学びました。そんな先輩方は常に僕たちの目標であり、手本であり、憧れの存在でした。僕は入学式の時、先輩方の校歌を聞いて思わず鳥肌が立ちました。さらに、昨年度の合唱コンクールでは、平岡中央中学校の伝統が合唱であることを強く実感し、その歌声にとっても感動したことを覚えています。部活動では先輩方がいつも優しく、時に厳しく指導してくださって沢山のことを学ぶことができました。生徒会の活動では先輩方が常に僕たちをリードしてくださって、僕たちはいつも先輩方に頼ってばかりでした。そんな先輩のように僕たちも部活動や、生徒会活動で最高学年として頑張っていきます。先輩方はいつも先のことを考え、僕たちの気づかないところにも気を配り行動していらっしゃいました。さらに、様々な行事がコロナにより制限された中で、ラオリンピックを開催していただきました。先輩方の団結力、新たなものを生み出そうとする創造力などは、決して自分では思いつかないような斬新かつ独創的なアイデアばかりで、ただそんな先輩方の存在の大きさを知ることとなりました。先輩方と過ごした時間はとても貴重で、他の何にも代えられない大切なものだという事を、今先輩方の卒業を目の前にして強く感じています。明日から先輩方の姿を見られなくなります。今はまだその気持は湧きません。きっと先輩方の巣立った中学校生活の中で、ふとした瞬間にその存在の大きさに改めて気づくのでしょうか。僕たちはこの出会いを決して忘れません。これから先輩方は希望の進路へと歩まれることと思います。自ら選んだ道に自信をもち、これからの輝かしい未来に向かって進んでいかれる先輩方を僕たちは心より応援しています。

最後になりますが、先輩方がこれまで良き先輩として僕たちを導き、励まして下さったことに心より感謝申し上げます。皆様のご活躍とご多幸をお祈りし、在校生一同お祝い申し上げて、送辞とさせていただきます。早春の息吹を感じる昨今どうかお健やかに過ごしてください。